特別講演

主催：東北工業教育協会
とき：昭和63年10月25日
ところ：秋田大学教育学部

秋田における新しい流れ

AKITA : a place of new trends

増田 達夫
Tatsuo MASUDA

本日は、伝統ある東北工業教育協会の年次大会に講演の機会を与えていただき、大変光栄に存じます。大いに秋田県の良さや新しい流れにつき宣伝をさせていただきます、皆様に一層秋田県のファンになっていただきたく存じます。

1. 秋田の良さ

秋田には、際立った良さが数多くあり、これらが、これからの秋田県の元気の源となっていくと思われていますが、ここではその数例をあげてみたいと思います。

(1) 美女

秋田米の宣伝コピーに「美人をつくる秋田米」があり、おいしいお米の三大銘柄にまでなったお米にも「あきた小町」の名が付けられておりますが、秋田美人はこの宣伝以上であります。しかも、平均点が非常に高いと言えます。今日は科学者の皆様に前にして、少し科学的に説明させていただきます。県南の湯沢市で産婦人科医院を開業している杉本博士は、女子高校生4,000人の肌を調べて皮膚の色を測ったそうです。その結果、白色度が日本人平均が22%に対して、秋田県の女性の平均は29.6%、特に県南は30.5%で、西欧白色人種の40.5%に迫るというものでした。また、秋田県人の血液型は日本一B型が多く、西欧白色人種にもB型が多いことを考え合わせますと、大陸との混血が多いという説も現実的に思えます。

(2) 美男

しかし、美女が多ければ、医学的必然性から美男

も多いはずですが。そのとおり、秋田県は美男の産地でもあり、女性ばかりもてはやされるのはフェアではありません。全体に背が高く、顔つきも立派な人が多いと思われます。これからは、男性の美しさも積極的に価値が認められる時代です。私は、酒造組合に、美男をテーマにした日本酒のコピー、例えば「美男を磨く秋田の酒」を採り入れてはと、いま真剣に話しているところです。

(3) 美酒

さて、御存知秋田のお酒であります。59の酒蔵があり、最近はやりのドライものを入れますと約200銘柄がございます。かなり石高の大きい酒蔵でも肝心の部分はきちっと手造りでやっており、加えて、北緯40°という酒造りに最適の風土も相俟って、酒に芸術品としての命を吹きこんでおります。石高を追求するよりも、特色と品質を磨き付加価値を高くして売るといふ、言わばヨーロッパ的経営がなされております。この美酒を支えるのが地元秋田の飲み手であります。清酒消費量は、成人1人当たり年間17升と、21年連続日本一の他を寄せつけぬ金字塔を打ち建てております。

(4) おしゃれ

街を歩いて気づくのは、おしゃれな人が多いことです。皆様は、女性が付けるピアスを御存知でしょうか。耳たぶに小さな穴をあけて金や白金の小さな飾りをつけるものです。おそらく東京よりもピアスがはやっているのではないかと思います。映画監督の大島渚氏によれば「おしゃれは心の緊張感のあらわれ」。秋田の女性は、素材の素晴らしさに加え

ておしゃれ。是非、秋田美人のさりげないおしゃれに御注目下さい。

(5) スポーツ環境

今月初め終了したソウルオリンピックで、金銀のメダルをとったレスリングの佐藤選手と太田選手は秋田県出身であり、また、プロ野球にも多くの選手を輩出しております。中日の落合・小野、阪急の山田、西武の高山、大洋の松本、近鉄の村田、日ハムの工藤などキラ星のようです。これらの選手を輩出する背景には、高水準のスポーツ環境があります。例えば、秋田空港をとりまく600ヘクタールの県立中央公園にあるスポーツゾーンは、視察に来たスポーツ王国アメリカの関係者も羨ましがれる施設が広大なスペースに配置されております。

(6) 自然との調和

今、日本の大都市の中で最も犠牲にされており、しかし、これから改めてその価値と必要性が認識されられるのが、生身の生き物である人間と自然との調和であります。その点、秋田県では、言わばこれからの流れを先取りした形で、自然と調和したライフスタイルが定着しております。春のお花見や秋の「なべっ子」だけではなく、天気の良い日には、公園や野原でさりげなく野外料理を楽しんだり、弁当を広げたりする風景をいたるところで見かけます。それぞれのグループが、それぞれのスタイルでやっていることも楽しいことで、ヨーロッパ的なライフスタイルを持っているとも言えます。

2. 新しい流れ

このような素晴らしい良さを持つ秋田県に、いま、様々の分野で新しい流れが起こっております。ごく最近の出来事に絞ってみても、次のとおりです。

(1) 好調な企業誘致

全般的な好景気にも支えられて、企業誘致は63年度上半期で22社と、対前年同期比で240%となっております。うれしいことに、このうちの過半数を先端技術型企业が占めております。

(2) 日米合併会社の立地

秋田港のある土崎地区に、本年4月、日米合併企業が操業を開始しております。エス・エフ・シーというプリント回路板のメーカーであり、ミネソタ州のシェルダール社、住友ベークライト及び日本シー・エム・ケーの合併企業で、400人を擁し順調な操業を続けております。シェルダール社のウォマック会

長は秋田の人材に注目して立地したと言い切っております。現在では、日米双方で技術者を相互に派遣し、研修させるところまで関係が深まってきております。

(3) 本社の秋田への移転

東京の会社が本社をそっくり秋田県へ移転し、同じく今年4月に操業を開始しております。三和油機という業界でも10指に入る油圧シリンダーの専門メーカーで、優秀な人材の確保の観点から秋田県に着目し、社長以下全員が秋田に移って来られました。秋田県としては、企業誘致冥利に尽きるうれしい流れでございます。

(4) 情報サービス業の急成長

秋田県に適性の高い新しい産業と注目されているのが情報サービス産業です。昨年度の各社、各事業所の売り上げの伸びは軒並み高く、最も高いところは対前年比で160%の増加を享受しております。従業員1人当たりの売り上げ高は、61年度の統計では865万円と、第二位の宮城県の799万円を大きく離しトップを走っております。秋田県に適性の高い産業として期待される所以です。

(5) 情報処理技術者の国家試験

コンピュータ技術者の国家試験である情報処理技術者試験も、このような傾向を反映して、今年4月秋田市に設置され、去る10月16日の試験には、1,000人近い若者が応募するまでに、人材面での母体が広がりがつあります。

(6) 香水原料の世界初の製造試験

男鹿半島のつけ根にある日本鉱業の船川製油所で、バイオ技術を使って1g当たり20万円もする天然麝香(じゃこう)と同じ香料を石油成分から造る世界初の製造試験を行っております。成功すれば付加価値が2000倍になる製品が出来ます。秋田県の土壌から発見された酵母キャンディダトロピカルスが決め手となっているそうです。

(7) 矮化イネの開発

大潟村にある県立の生物工学研究所が、イネの15%の矮化に成功し、今年7月バリで行われた第8回国際バイオテクノロジーシンポジウムにて発表しております。15%というのは、米粒の大きさと味を損ねないギリギリの矮化率で、世界的に注目される研究開発と言われております。

(8) 酵母菌の磁気殺菌

秋田では産学官共同の研究開発がいくつか進めら

れておりますが、その中で最も注目されますのが、秋田大学、県醸造試験場、酒造組合の三者で共同開発中の酵母の磁気殺菌技術です。常温で特定の酵母を殺菌できれば、酒をはじめとする醸造産業にとり新天地が拓かれるものと期待しております。研究成果の一部は、去る10月8日に静電気学会にて発表されております。

(9) 第1回日経ニューオフィス賞

秋田市の卸センターの隣に人目をひくインテリジェントビルがございますが、このビルが、本年6月の第1回日経ニューオフィス賞で全国第3位となりました。地元企業である千秋薬品のSYNAP館で、中には同時通訳設備を持つ国際会議場までそろっております。第1位、2位がYKK、NTTと世界的超大企業であることからみれば、正に秋田県の面目躍如と言えます。

3. 流れをとらえた施策

このような新しい流れを更に確かなものにするために、県として様々な施策を打ち出しております。

(1) 東北インテリジェントコスモス構想

東北全体を研究所に見たて、各県、各機関で最も得意の分野を受け持っていくとするこの構想は、正に時代の要請に応えるものとして、県としても秋田大学と密接に連携し積極的に取り組んでおります。

(2) 金属鉱業研修技術センター構想

秋田県の持てる資源を活かした研究開発と技術研修の場をつくらうとするのがこの構想であります。渡部学長、大塚鉱山学部長をはじめ秋田大学からの強力な支援をうけつつ、秋田県の北鹿地域への設置に向け通産省をはじめ関係方面に働きかけております。

(3) 秋田産業技術開発研究所構想

秋田県の産業の技術開発力を飛躍的に高めるための最先端の研究所を設置する構想を、文字通り産学官の知恵を集めて検討中であります。如何に特色を出しかつ研究開発意欲のある企業にとり魅力のあるものにするかがポイントになっております。

(4) バイオミッケリア構想

生物工学研究所の機能を充実させるとともに、その研究開発成果を実際の農業や産業に幅広く活かしていくことを狙いとしており、基幹産業の一つである農業を強力な産業に育てていくうえでの極めて重要なプロジェクトであります。

(5) 大規模リゾート整備構想

三次産業の中でも、とりわけレジャー部門が大きく成長していく流れの中で、秋田県では、八幡平・阿仁・田沢地域を大規模リゾート整備地域として整備していく考えてあり、年度内には、国の承認が得られる見込みであります。世界に一つしかないと言われるような特色あるリゾートに仕上げることがポイントであります。

4. 時代を創る秋田をめざして

ただいま申し上げましたような、類いまれな秋田の良さを更に伸ばし、新しい流れを更に力強いものに広げていくならば、時代を画するような研究開発や新しい文化が秋田から日本全国そして世界に発信されることは充分現実的なことと信じております。

どうぞ、皆様におかれましては、秋田にもっともっと新しい流れを起こすようお知恵とお力をお貸しいただけるようお願い申し上げます。

ありがとうございました。

増田 達夫：昭和46年3月、慶応義塾大学法学部政治学科卒。

現在、秋田県商工労働部次長。